

令和6年12月25日

～山梨県におけるプレコンセプションケアの取り組みについて～

山梨県子育て支援局子育て政策課

1 これまでの経緯

- R5.11～ 専門家グループとのミーティング(定期的実施)
- R6.8.5 企業向けプレコン啓発セミナーin山梨中央銀行
- R6.9.11 eラーニングを活用したオンラインセミナー本格的スタート
- R6.9.19 プレコンセプションケアセミナー(キックオフイベント)開催



- ★ セミナー受講後の18歳から39歳の女性を対象にプレコン健診を実施

「企業向けプレコン啓発セミナー」in山梨中央銀行

目的

プレコンセプションケアに関する知識を伝えるとともに、キャリアとライフイベントの両立について考える機会を提供する。

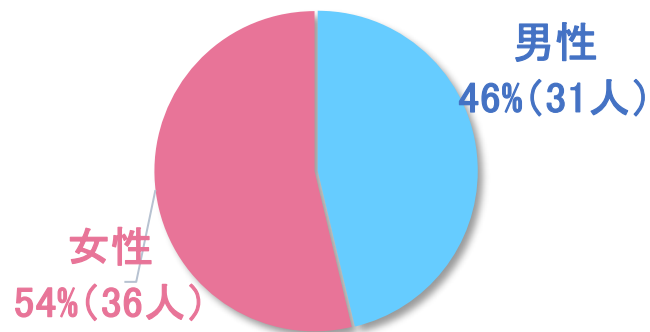
セミナー概略

1. 開催日時: 令和6年8月5日(月)、6日(火)午後3時45分～4時45分
2. 場所: 山梨中央銀行研修センター
3. 対象者: 山梨中央銀行3年目行員 ※行員研修として実施
4. 主催: 山梨県、住友生命保険相互会社(R5に包括連携協定を締結)
5. 内容: 講義・演習
演題: 「将来のために正しく知ろうープレコンセプションケアをはじめようー」
講師: (株)ファミワン 不妊症看護認定看護師 西岡有可氏
(月経・PMS、プレコンセプションケア、ライフプラン・キャリアプラン等について)

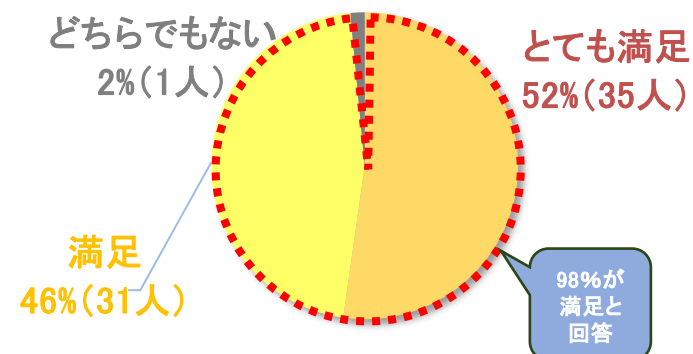
アンケート結果及び当日の様子 企業向けプレコン啓発セミナー

(回答者数67名・未回答者なし)

男女比



満足度



当日の様子

参加者の声

- ・自身のキャリアプランとライフプランを見直すきっかけとなった。
- ・自分の体ともっと向き合っ、規則正しい生活を心がけようと思った。
- ・女性の行動や言動に寄り添い、声かけをしようと思う。



プレコンセプションケアセミナー ープレコン健診キックオフイベントー

目的

医師による解説を交えながらプレコンセプションケアについて、理解を深め、自身の健康等を見直す機会を提供する。

セミナー概略

1. 開催日時: 令和6年9月19日(木)午後6時30分～7時45分
2. 場 所: 古名屋ホテル
3. 対象者: 山梨県在住もしくは、在勤の方 参加者数: 140名
4. 内 容: 講義

演題: 「妊娠を考える前に知っておきたいこと」

講師: 医療法人財団順和会 山王病院 名誉病院長 堤 治 氏

山梨大学医学部産婦人科 教授 吉野 修 氏

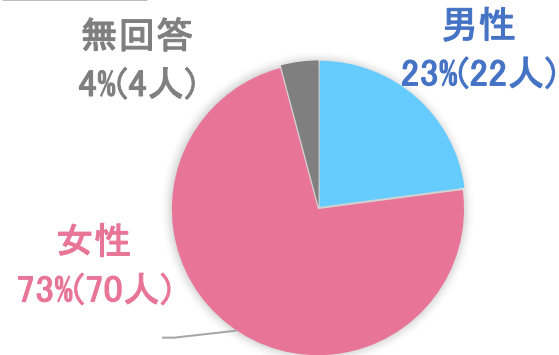
NPO法人フォレシア 理事 東尾 理子 氏

(プレコンセプションケア、不妊症、適切な食事管理、プレコン健診の概要等について)

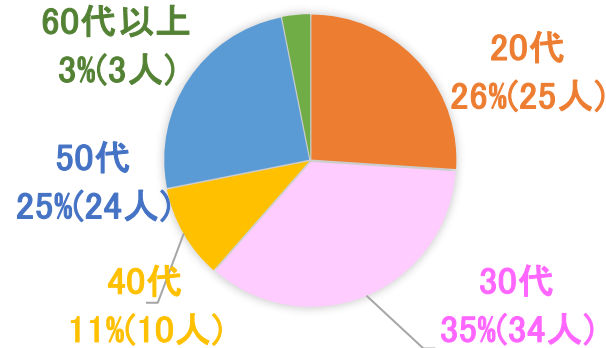
アンケート結果及び当日の様子 プレコンセプションケアセミナー

(回答者数96名／参加者140名)

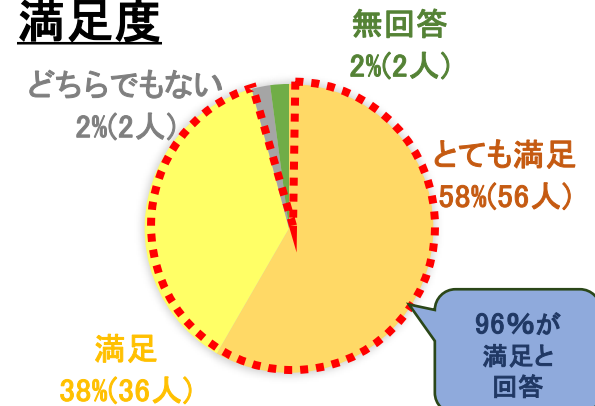
男女比



年齢構成



満足度



当日の様子

参加者の声

- ・妊娠を考える上で、自分の体と向き合うことが必要だと感じた。まずは食事からみなおしたい。
- ・プレコンに対する意識を周りにも広めたい。



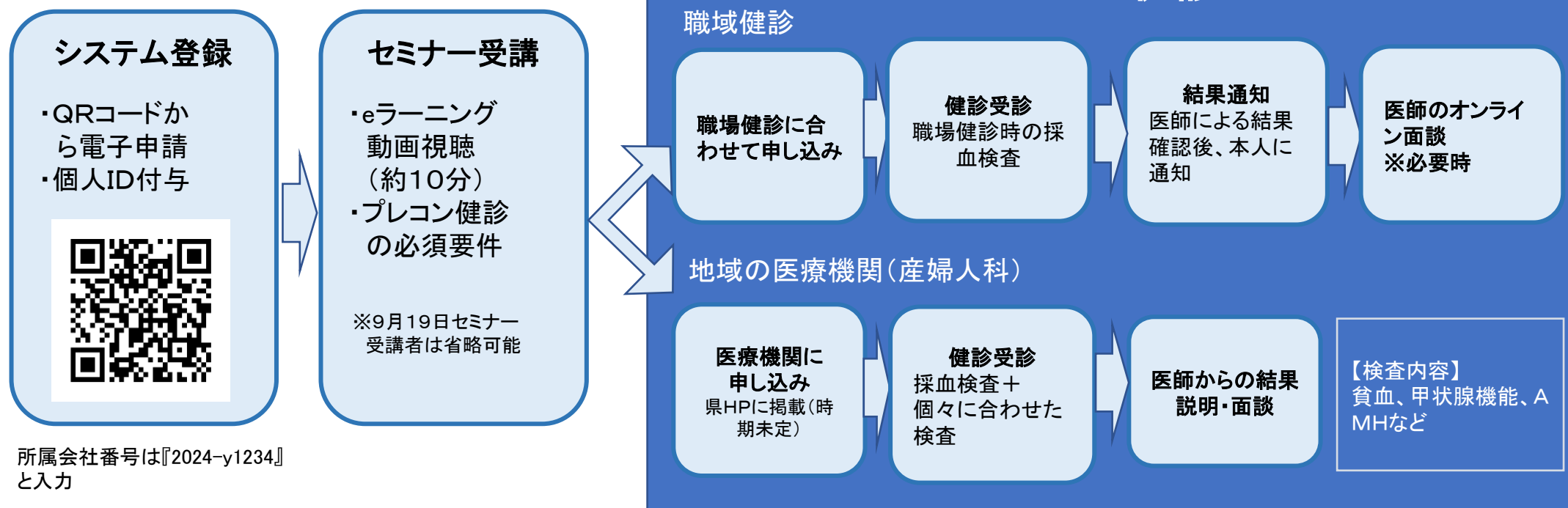
2 プレコン健診事業の概要

目的

若い世代が妊娠・出産に関する正しい知識を持ち、プレコンセプションケア事業をとおして将来の健康と健やかな妊娠・出産に備える。

事業の流れ

* 職域健診と地域の医療機関の両方で受診ができるのは、全国初



実施状況 (R6.9.11～R6.10.22現在 ※職域健診は一部8月下旬先行実施含む)

・職域健診	301名		
・協力医療機関(産婦人科)個別健診	48名	計349名	(システム登録分)

職域健診検査前アンケート結果 (R6.10.8現在) 回答数143件

職種(上位3つ)

事務・アシスタント	44.1%
教育関連職(教員・保育士等)	12.6%
医療・介護・福祉関連職	11.2%

年齢(上位3つ)

30代後半	33.6%
30代前半	30.8%
20代後半	29.4%

プレコン健診を受ける理由(上位3つ)(複数回答)

健康診断の採血のみで受けられる	92.3%
病院に通院せずに検査が受けられる	30.1%
医療機関に行かずにオンライン相談できる	5.6%

職域健診と同時にプレコン健診ができない場合(上位3つ)

何もしない	81.1%
医療機関に検査を受けに行く	13.3%
検査キットなどを活用して自宅等でチェックする	4.9%

3 課題・今後の取り組み

課題

○企業の理解・協力を得て社員向け研修にセミナーを位置づけたことで男女共に多くの参加があった。また、職域健診についても同様に企業からの働きかけにより受診率向上につながった。

このことから、プレコンセプションケアを推進するためには企業の理解を促していくことが効果的であるといえる。

○職域健診は健康診断の採血のみのため、受けやすい仕組みであるが、一人当たり5～6万円と高額であり、受診者の増加に伴い県の費用負担が大きいものとなる。

○職域健診受診者の年齢層は30代後半が最も多く、次いで30代前半であった。妊孕性を考慮すると、更に若い世代への働きかけが必要である。



今後の取り組み(検討事項)

○産業・労働などの関係部署との連携による企業への理解促進への強化

○健診事業者や企業、市町村等が主体的に取り組める仕組みづくり

○若い世代への効果的な働きかけ